



だっこするよ

2022年7月

社会福祉法人茂原高師保育園
北区立赤羽台保育園
園長 奥戸 昌子

心のサインを受けとめる そして 対話が生まれる園の風土をつくりたい

猛烈な暑さの為、お部屋の行き来やホールや廊下を利用して、時には交流しながら過ごしています。大型プールを設置しました。子どもたちが楽しみにしている水遊びやプール活動が始まります。安全第一で活動して参ります。

6月、保育参観へのご参加有り難うございました。参加いただいた保護者の方からの感想から、忘れてはいけない大切なことに気付かせていただき、職員と共に学ぶ機会を得ました。皆様と共有したく書かせていただきました。

乳児クラスでの参観、公園遊びを近くで見させていただいたときのこと、遊びのあと集まってお茶の時間、その日は、暑かったのでお子さんが「はい」「はい」と何度もコップを保育士に差し出していたそうです。何度も差し出す姿に、ママには「お替わりが欲しいと言ってる」と子どものサインが見えているのに、側にいた保育士は、子どものその気持ちに気付かず、差し出していた手を見逃し、お茶を片付けてしまったということがありました。言葉で気持ちを表現出来ない乳児に対して、担当保育士が気付かなかったその光景、近くに居たママは、どんなに辛かったかと想像するに余りあります。友だちと楽しそうに遊ぶ姿と共に、我が子の思いに気付いてもらえなかったことがとても寂しく辛かったと涙ぐまれていました。私も話し合いに同席させていただき、母親としてのその空しい気持ちはよく伝わってきました。

対応した保育士からは「お茶をお替わりする子がいつも居なかったので、〇〇ちゃんがお替わりを求めていたことも分らなかった」「〇〇ちゃんの気持ちに気付かず申し訳なかった」と。自分たちの普段の関わり方が本当に子どもの目を見て、心を汲むことをしていたのか、このことは、乳児保育の根幹です。乳児会議を開き、話し合いました。母親でもある保育士は「我が子のサインを受けとめてもらえないのは、親としてとても悲しい。」若手保育士も「無意識でしていたことを見直したい」「子ども目線で、子どもの目を見て何をしたいのか考えていきたい」など意見が出ました。0、1歳児は、言語表現でなく、体や表情からの心のサインを受けとめること、常に問い続けていきたいと思えます。今回のことは、大きな学びになりました。感想に書いていただいて本当に有り難うございました。過去は変えられませんが、これからの一日、一日の保育で心の信頼を積み上げて参ります。

保育指針には「特定の大人との応答的な関わりを通じて、情緒的な絆が形成されるといった特徴がある。発達の特徴を踏まえて、乳児保育は、愛情豊かに、応答的に行われることが特に必要である」と書かれています。単に生命の保持だけでなく、心の育ちを保障されること＝子どもたちが、困った時、イヤイヤしたい時に自分の気持ちが分ってもらえる安心があるか、担当の保育士が応答して、共感されているかが大切です。保育士に共感して寄り添ってもらえる毎日があるから、人への絶対信頼感が育ち、生きる喜び・自信につながっていきます。保育理念「一人ひとりのこどもを大切に こどものための保育園へ」を守り、子どもを一個の人間としてリスペクトして、向き合っていきたいと思えます。今後も何かご不安な点、気付いたことなど皆さんの声を聴かせてください。子どもにとって、保護者にとってより善い園にしていきます。そして、それには、大人同士の対話が生まれる雰囲気、風土をつくりたいと思えます。大型園だからこそ大事です。その子に関わる大人、現担任や前の担任、園長・・・嬉しかったこと、疑問に感じたこと、声を掛けて頂けたらと思えます。

園は、今、異年齢保育へと大きく変わろうとしています。パートナーである保護者と共に、一人ひとりの個を尊び、違いを強みにする保育、多様な関わりが生まれる子ども社会を目指しています。7月30日、8月6日（土）10時と13時30分 異年齢保育への切り替えについて説明会を開きます。4回の内容は同じです。詳細はコドモンで配信いたします。ご都合のよい日時にご参加ください。 写真は、年長組 看護師による健康教育 元気の時間「トイレの使い方について」